

## 一宮斎場の建て替え工事が始まりました

一宮市には、2カ所の斎場(火葬場)があります。現在の尾西斎場は平成10年の開設で、5基の火葬炉が稼働しています。また一宮斎場は昭和38年の開設で、8基の火葬炉が稼働し、平成4年に炉の改修を行いました。火葬設備の耐用年数は一般的に16年とされています。一宮斎場は建物・設備ともに老朽化が著しく、早期の建て替えが必要な状況となりました。

市では、平成18年11月に「一宮斎場建替基本計画」を策定し、火葬施設の機能を適切に維持するとともに、環境規制に対応するための設備の高度化や、システムの自動化等による運営の効率化、快適性やサービスの向上を図るための施設の更新を進めることになりました。また建設に当たっては、市で初めてとなる「民間資金活用による社会資本整備(PFI)方式」の採用を検討することとしました。

PFI方式は公共施設等の建設・維持管理・運営などを、民間の資金とノウハウを活用して一体的に行う新しい手法です。市が直接行うよりも「低いコストで質の高い公共サービス」を目指すものです。

事業化に先立って、建設工事費と完成後15年間の維持管理費の合計を、市の直営とPFI方式で比較したところ、PFI方式の場合は16・7%削減できることが分かりました。この結果を受

けて、PFI方式を採用することに決定しました。

公募型プロポーザル方式で事業者を募集し、審査委員会で提案内容や費用を総合的に審査した結果、最高点のグループを選定しました。

建設場所は現在の敷地の南側に確保し、3月1日に着工しました。現在の火葬施設を稼働しながら工事を行っていますので、ご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、よろしくお願いいたします。

一般的に、斎場は火葬機能・待合機能・式場機能・管理機能からなっています。一宮市の場合、民間による式場機能が充実していますので、式場は設けないことになりました。待合機能についても周辺に民間施設が立地しており、最小限度の整備にとどめます。

火葬機能については、将来予測が重要になります。20年度の実績は、一宮斎場で2402件、尾西斎場で770件となっており、近年、両施設とも増加傾向にあります。人口統計から推測すると、年間死者数は37年、42年にピークを迎え、現在の約1・5倍の間4400人余りとなる見込みです。

さらに休業日明けの集中状況なども考慮し、13基の火葬炉を整備することになりました。最近のペットブームを踏まえ、新たに動物炉も1基設けます。本格的な超高齢社会では、来場者の

多くが高齢者ということも考えられますので、どなたにも使いやすいデザインを採用し、緑豊かな心休まる環境を整えます。告別室なども充実させますので、延べ床面積は現在の2・8倍になる予定です。

斎場は、ご遺族が故人と最後のお別れをする場所です。死者の尊厳を重んじ、ご遺族や会葬者のお気持ちに配慮した質の高い施設・運営サービスを提供したいと考えています。供用開始は23年4月1日の予定です。



一宮斎場完成予想図